

クラス番号	312	担当教員名	小林勇人
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	労働と社会保障から、自由で平等な社会について考える		

ゼミナール概要

◆著書：2010『アメリカ・モデル福祉国家Ⅰ』（共著）、2012『労働と生存権』（共著）、2012『福祉政治』（共著）、2013『公共性の福祉社会学』（共著）、2014 *Basic Income in Japan*（共著）、2020『ホームレス経験者が地域で定着できる条件は何か』（共著）

◆研究課題：欧米の社会保障・労働市場改革の分析と日本への含意

◆キーワード：能力主義、所得保障、社会保障、公的扶助、就労支援

◆目的、内容、方法等：

本ゼミの目的は、労働問題や貧困問題、ケア問題に対して、「自己責任」や家族の「助け合い」に還元するのではなく、社会がどのように応答して解決していくのかを考えることです。

近年の日本では、少子高齢化に伴う人口減少のなかで、健康や生活時間の確保、正規・非正規雇用間の公正な待遇を目指す「働き方改革」と、高齢者だけではなく現役世代の給付を拡充する「全世代型社会保障」への改革が進められています。しかし、いまだに過労死の問題がニュースで報じられ、育児・介護休業の取得率は低く、ケアの負担は重いまま格差が広がりつつあります。

戦後の福祉国家では、男性が勤め人として賃労働を行い、女性が主婦として無償ケア労働を行うことを前提に、生活を保障する制度が形成されました。日本では、雇用保障が社会保障を代替し、男性正規雇用の世帯を中心に社会保障が形成されたため、非正規雇用や一人親の世帯に対して社会保障が十分に機能していません。雇用や家族の不安定化が進むなか、所得保障や福祉サービス、職業訓練・教育の拡充が求められています。

このようにゼミでは労働と社会保障の関係に着目しつつ、上述の社会問題に対して、主に制度・政策分析という方法でアプローチします。たとえば、シングルマザーや障害者など就労困難な者が、働きやすく暮らしやすい社会にするためにはどうしたらいいか、制度・政策の課題について分析します。（労働）能力の有る無しや高い低いによって、受け取ることができるものや生活のあり方に差が生じ、人々の分断や序列化が行われてしまうような社会を批判的に検討しながら、自由で平等な社会のあり方について考えていきます。

◆授業計画：

- （3年生）前期：文献講読と討論によって、基本的な概念や理論を習得し、個々の研究テーマを選択
後期：文献研究やフィールドワーク等を通じて、個々の研究テーマを掘り下げ中間レポートを作成
（4年生）前期：公務員試験や就職活動に合わせつつ卒論準備（希望に応じてエントリーシート・面接対策）
後期：卒論を完成させ、政策提案（希望に応じて社会福祉士国家試験対策）

担当教員からのメッセージ

私は能力主義に問題意識をもちながら、アメリカの公的扶助を中心に、所得保障制度と雇用政策の関係について研究してきました（<http://workfare.info/>）。

制度・政策分析ときくと難しく感じる人もいるかもしれませんが、社会の「仕組み」について考える力を養うことは、公務員をはじめ将来どの分野で働く場合でも多いに役立ちます。ゼミでは問題意識が重要になるので、エントリーシートに、関心のある（1）社会問題、（2）制度・政策について具体的に書いてください。

大学においてゼミでの2年間は、真剣に学問を学ぶ刺激的な時間と、大切な仲間に出会う機会を提供してくれます。楽しいゼミにしていきたいと思います。